

【福澤記念館 新収蔵資料 読み下し】
前期展示

書簡①

匝瑳郡椿村

菅治兵衛様福沢諭吉

山口仙之助持参

益御清安奉拝賀候。

伊東茂右衛門事

五、六日前北海道より一寸

帰京、令弟御事益

御盛、当時へ学校ニ従事

なれ共、来春にも相成候得者

又所企も有之との事ニ

御座候。

又爰ニ一事、此人へ

山口仙之助ト申旧本塾生、

現今へ箱根宮ノ下住居、

随分資本にも乏しからず、

此度千葉県下地面

買入ニ付、其探索之為メ

態ト出張いたし、既ニ

県庁知人之方へ添書も

さし越置候得共、地面

之事へ其土地之人

ならでへ探索不行届

之義も可有之へ必定、就而へ

其御地へ罷出、様々御相談

相願候義も可有之、何卒

其節へ宜敷様

御周旋御注意奉願候。

い才へ本人より可申上

候得共、為念添書一筆

如此御座候。早々頓首。

十一月廿五日 福沢諭吉

菅治兵衛様

書簡④

時下寒冷益御清福

奉恭賀候。陳者、過日演

説者派出可致旨御申

越ニ従ひ、岡崎氏始ニ

名相頼差出候へ者、定御盛

会相催し相成事ニ奉存候。

尚又社員山口仙之助と

申す人、貴境近傍

青海横須賀等ニおゐて

田土買入ニ付土地不案内

御示教相願度旨依

頼相成候ニ付何卒同

人へ御対話御示教被成

下度此段願上候。山口氏へ

慶應義塾にも被居候て

小生之曾て知音之人ニ有

之候。右御頼申度迄。

匆々敬具。

十一月廿五日 小幡篤次郎

菅治兵衛様

後期展示

書簡②

本文之始末ハ、夫レトなく交詢雜誌ニも記載可致杯申者も有之、一場之大評判ニ相成候。

益御清安奉拝賀。過日者貴翰被下、未夕御返事も不差出内、昨日山口仙之助帰京、同人出張之一条ニ付而者

不容易御配慮を蒙り、誠ニ来書之通り何共名状も難成難物ニ有之よし、驚入候次第、仙之助も且驚且喜、以御蔭帛口を免れたりとて喜悦之余り嘆息いたし居候。同人方万々御礼可申上ハ勿論ニ候得共、老生も為ニ添書を認メ、此仕合ニ至りしハ誠ニ難有奉存候。何れ其中拝面万可申上候得共、不取敢一応之御礼まで、早々如斯御座候。頓首。

十二月十五日 福沢諭吉

菅治兵衛様

尚以、時候折角御自重專ニ奉存候。其中御出京にも相成候ハ、些御立寄奉待候。以上。

書簡③

〔封筒表〕千葉縣下
総國匠瑳郡椿村 菅治兵衛様 親収
〔封筒裏〕封 東京
芝区三田式丁目式番地 小幡篤次郎

益御清福奉恭賀候。陳ハ過日御厄介被成下候様申上候山口仙之助帰京、昨日本局へ参り、御地ニ罷出候後之模様委曲承り、同人申二者、最早山師之陥穽ニ九分迄ニ踏込虎狼之一食餌となる斗之處ニて、全く貴下之徳望其御地方ニ大なるが為め、災厄ヲ免れ厚謝辞なき事ニ申居り小生方も厚御礼申上呉候様被相頼候事ニ御座候。旅店ヲ始メ殆ト遇ふ所之人、皆其眞実ヲ称し居り申も、貴下と縁故あるものと知て、欺くへからざるを覚知し、始て実ヲ吐き、全ク虚誕なる事を白状せり。実き危き事なりしと申居候。本社ニても斯る美事之一助と相成り、大ニ満足之事ニ奉存候。右御礼申上度、余ハ他日ニ讓申候。拝具。
十二月四日 小幡篤次郎
菅治兵衛様